

米国地質調査所地形学土砂水理研究所との研究協力に関する協定を締結

寒地河川チーム

1. はじめに

平成25年5月、寒地土木研究所(以下 CERIS という)と米国地質調査所(United States Geological Survey : 以下 USGS という)地形学土砂水理研究所(The Geomorphology and Sediment Transport Laboratory : 以下 GSTL という。)は、河川工学及び河川環境工学分野の研究交流及び協力を促進することを目的とした協定を締結しました。

2. USGS 及び GSTL の概要

USGS は、1879年に設立された水文学、生物学、地質学、地理学の4つの主要な研究部門を持つ米国内務省所管の研究機関であります。

職員数は約9千人であり、上記分野では世界的にも有数の研究機関であります。このうち GSTL は水文学と地理学にまたがる研究に携わっています。

3. 協定について

協定の調印は、USGS の Jerad Bales 水局長、CERIS の池田所長が、文書を郵送により交換しそれぞれ署名を行いました。

協定に明記されている協力形態は以下の3点です。

- 1 技術的な情報、資料、刊行物等の交換
- 2 講師及び研究者の相互訪問
- 3 共同ワークショップ、セミナーの開催

また、協力分野は以下の6点です。

- 1 河川土砂に関する研究
- 2 河床地形に関する研究
- 3 河川流・土砂輸送・地形変化の数値シミュレーションに関する研究
- 4 洪水氾濫の数値シミュレーションに関する研究
- 5 河川地形・2次元流速・水深のリモートセンシング技術に関する研究
- 6 河川予測に関するソフトウェアの研究開発



写真-1 当研究所における署名風景
(前列中央が池田所長)



写真-2 USGS における署名風景
(左から Jerad Bales 水局長、Robert Mason 氏)

5. おわりに

CERIS と USGS は、ともに洪水時の河床波に関する実験、観測、モデル開発等を行っており、双方のデータを共有することで、より多角的な分析が可能です。また、USGS が提供する衛星データやデータ処理技術を用いて、CERIS が汎用性の高い水理計算モデルを開発できると考えています。今後は、ワークショップ等を通じて具体的な取り組みを進めて参ります。

(文責：柿沼 孝治)